

陳 述 書

令和7年4月12日

住所 恵庭市

氏名 被告牧場経営者 Y

第1 遠藤牧場について

私は、X 牧場を経営していた故 X (以下「夫」と言います) の妻です。

X 牧場がいつからやっていたのか知りませんが、私が以前回答した昭和40年4月1日以前から行っていました。

昭和40年4月1日というのは、私が夫と結婚した年だと思います。

その後、昭和63年4月ころから、息子のZも X 牧場の運営に関わるようになりました。

また、私は以前、平成11年4月1日ころ私と夫が経営から退くと回答していましたが、必ずしも経営から退いた訳ではありません。

そして、平成28年5月20日ころ酪農部門は見限って酪農部門を閉鎖しました。また、酪農部門はあくまで自主的に閉鎖したものであり、酪農部門が破綻したものではありません。

また、酪農部門の閉鎖と共に息子のZは、外に働きに行くようになりました。

酪農部門を閉鎖した後は、農業部門を専門に行っていました。

農業部門においては、バジル、ズッキーニ、茄子等の野菜を作り、恵庭市にある「道の駅」におろして販売しておりました。

農業部門は原告らが出て行った令和4年ころまで、夫(令和2年まで)、私、原告らで行っていました。

第2 原告らの里親になった経緯について

1 原告の A さん(以下、「A君」と言います。)は、夫の父である [REDACTED] が施設から依頼され、昭和51年12月ころから面倒を見ることとなり、令和4年7月31日までの約45年間 X 牧場で一緒に暮らしていました。

2 原告の B さん(以下、「B君」と言います。)は、平成13年12月ころ

から令和4年6月22日まで約20年間 X 牧場で一緒に暮らしていました。

B君 がうちに来た経緯は、B君 が以前住んでいた牧場が廃業したため、近隣の牧場に移ったのですが、その牧場が遭わなくて逃げ出してしまう、トイレに隠れているところを発見され、その後、夫が育恵会の会長だったことから相談され、行く当てもないのでうちで面倒を見ることになったのです。

- 3 原告の C さん（以下「C君」と言います）は平成13年12月31日ころから令和4年6月22日までの約20年間 X 牧場で一緒に暮らしていました。

C君 がうちに来た経緯は、以前住んでいた牧場が廃業したため、牧場で働く前の施設において同僚で仲が良かった C君 と一緒に X 牧場にお世話になった方が良いのではという提案があり、C君 をうちで面倒を見ることにしたのです。

ただ、C君 は虚言癖があり、おじさんがチャーター飛行機で海外に行くということを言ってみたり、自分もあちこち外国に行ってきたとか、温泉で外国に行ったときにあった外国人にあったなど言ったりしていました。

逆に、物を壊し悪いことをしたときは黙って隠すような子でした。

ただ、悪いことをして隠すのは C君 だけではなく、他の二人も同様でした。

第3 原告らの住環境等について

- 1 まず、A君が来たときは、古い家があったので断熱材を入れたりして改築し住んでもらいました。A君の家はいわゆるプレハブではありません。

- 2 B君 と C君 は最初、私の家の2階の部屋と一緒に暮らしていました。

しかし、息子達が同居することになり B君 と C君 にはそれぞれA君 のとなりにスーパーハウスを購入してそこに二人は暮らすようにしてあげました。

スーパーハウスを一人に一棟あげたのは、二人とも、一人一部屋でないと嫌だとずっと言っていたからです。

- 3 もちろん、3人の部屋には電気も通じさせており、明かりをつけることが出来ました。

- 4 トイレについては、スーパーハウスをA君の隣に設置したので、B君 と C君 にはそこを使ってもらうようにしました。

もちろん、私の家のトイレを使わないようにと言ったことはなく、トイレについては自由にさせてあげていました。

5 暖房については、最初は全員に灯油のFF暖房をつけておりました。

しかし、A君を除いた二人は暖房機器をいじり、壊すことが多々あり、何回暖房を再購入したかわかりません。

ただ、暖房が無い中で生活するのは無理なので、壊す度に暖房を買ってあげました。

最終的にはみんな電気ストーブを購入して使ってもらっていました。

6 お水については、朝と昼に私がお水を入ったペットボトルとお湯が入ったポットを差し入れていました。

お水の利用については、牛舎があった時は牛舎の乳処理施設でお水とお湯を利用していました。

酪農部門を廃止して乳処理施設を撤去した後は、豚舎の処理室のお水を使えるようにしておきました。

ただ、誤解しないでいただきたいのですが、お水の利用を乳処理施設、豚舎の処理室だけにしろと言ったことは一度もありません。

後で述べるように食事は基本的に母屋においてみんなで食べていたので、家の水を使うこともできました。外での仕事なので水を使うときは、乳処理施設又は豚舎の隣の施設で使えるようにしていただけなのです。

7 また、原告らはペットボトルにボウフラがわいていたなどと主張しているようですが、私はそんな光景一度も見たことがありません。

私は里子の部屋が雑然として汚いと思ったら掃除しようと思っていたのですが、彼らにはこだわりがあり、私が部屋に入ると怒るので掃除は基本的に彼らに任せていました。

8 お風呂については、基本自由に入ることにさせていました。

お風呂に入る度に私は着替えを用意してあげていました。

A君は毎晩お風呂に入っていました。

ただ、B君とC君は風呂嫌いなのか3日に1度程度しか入りませんでした。

9 ご飯については、夫が亡くなる令和2年までは母屋で同じものを食べていました。

通常は、ご飯、おかず（肉、魚、野菜）、おつゆを用意していましたが、忙しい時には朝は卵かけご飯の時もありましたが、一緒にだし汁を出すようにしておりました。

夫が亡くなってからお昼はお弁当を出していました。ただ、それはレトルトカレーの様なものでなく、私が作ったものでした。

夜は皆で食べるときもあれば、自分の部屋に持って行って食べる場合もありました。

C君 はどんぐりや廃棄する野菜などを食べていたなどと主張しているようですが、私たちは皆にお腹いっぱい食べさせていました。

C君 が、廃棄野菜等を醤油や味噌につけて食べていたというのは、彼の嗜好だと思います。

C君 は人一倍ご飯食べていましたが、食べられるような物を何でも口にしていたようです。

私は、C君 に対して変な物を食べるんじゃないよと言っておりましたが、私に隠れて食べていたみたいです。

みんなにお腹いっぱい食べさせていたので、A君は、お医者さんにかかっていたのですが、お医者さんからは太り過ぎと言われていました。

第4 原告らの作業について

- 1 酪農部門があった時には、扱っているのが牛という生き物なので、朝は午前5時から作業を開始して、朝は6時に搾乳、夕方は午後6時に搾乳をして終わっていました。

その他には牛舎掃除、餌やり等でした。

ただ、それは原告らだけではなく家族全員で行う作業でした。

また、朝5時から夕方6時まで仕事をしっぱなしという訳ではなく、一つの作業を終えると休憩をとっていました。お昼休みの後は、午後2時くらいから作業が必要な時は、作業を行ってもらいましたが、作業が必要ない時もありました。

自由時間においては B君 と C君 は何もいわず、自転車でまちに出て買物していたようです。

A君は自転車に乗れないので、徒歩でコンビニに行き買物をしていました。

酪農部門があったときは、夫及びZが里子らに指示をしておりました。

但し、作業は毎日同じ作業なので、都度作業を具体的に指示しているわけではなく、作業終了のみを伝えておりました。

- 2 酪農部門を廃止して農業部門のみになった時には、4月から11月においては朝10時から12時、昼休みを挟み14時から16時まで草刈り、草抜き、苗運搬といった作業をしてもらっていました。

ただし、作業の指示は夫及び私がしておりましたが、きっちり時間及び具体的な作業を明確に指示していたという訳ではなく、大体こんなことをしてもらいたいといった指示程度で、あの子達も自由にやっていました。

また、雨の日はお休みになり、12月から3月までは農業部門として行う

作業はなく、雪が降った時のみ雪かきをお願いしていたぐらいです。

それゆえ、雪が降らないときは自由に行動していました。

第5 原告らへの年金管理等について

1 原告らの年金が入る通帳については、夫が里子らにかかる生活費としておろしていたようですが、私はあまりわかりません。

2 作業に対する賃金という点でも私は良くわかりませんでした。

お金のことは夫が亡くってから夫がやっていた流れをそのまま継続しておりました。

実際に、お小遣いがほしいと言われたときには2～3000円を渡してあげました。

C君は、その頻度が多く月に5～6回は渡していたと思います。

他の二人に対しても、申出がなくてもC君と同じぐらいはあげていました。

A君は病院通いをしていたのですが、その帰りに5000円を渡し、コンビニでみんな分もジュースとかお菓子とかを買ってあげなさいと言って、買物をさせていました。

第6 その他について

今般、C君のドアに鉄棒を立てて出られなくしていたという主張をしていると聞きました。

しかし、それは私たち家族が行ったことではありません。

C君は手癖が悪く、他の農場に盗みに入ることがあり、夜中にごそごそ活動することがあったようです。

そこで、C君がうるさいと言ってC君を部屋から出ることができなくするようやってみたみたいです。

私は、C君に対し、度々、夜におしっこ出来ないでしようと苦言を言ったのですが、その後、C君がやめてくれたかどうかは分かりません。

以上